Online ISSN 2433-2070

JCCG Press

Vol.21

Japan Children's Cancer Group News Letter

小児がんの子どもたちを救おうと 全国から医療の専門家が結集しました

©かとーゆーこ

第 21 号
発行日 2022 年 1 月 20 日
NPO 法人
日本小児がん研究グループ
JCCG 発行

夢に向かって

目指すはプロ棋士 視力0.01晴都君の挑戦

昨年4月、囲碁の代表的団体「日本棋院」によるプロ棋士養成制度の「院生」に仲間入りし、腕を磨いている少年がいます。埼玉県在住の中学1年生、岩﨑晴都君です。

現在晴都君の右目はほとんど見えず、左目の視力は0.01です。日本棋院によると視覚に障害のある院生は晴都君が初。「アイゴ」というはめ込み式の碁盤を相棒に新しい道を切り開いている彼の挑戦を紹介します。

岩﨑晴都君（13歳）。囲碁の練習時間は1日約5時間。指扇囲碁サロンで（埼玉県さいたま市）。

晴都君は急性リンパ性白血病にかかり、5歳までに2度再発。骨髄移植、さい帯血移植を受け、元気になりました。

1歳2か月で急性リンパ性白血病を発症

晴都君は2009年10月に1歳2か月で急性リンパ性白血病（ALL）を発症しました。微熱が続き、元気がなくなったため病院へ。近くの病院ではなかなか診断がつきませんでしたが、大きな病院で血液検査を受けるとALLとわかり、命をおびやかす敗血症の併発も見つかりました。

5か月後の再発とGVHD

※GVHD＝移植片対宿主病。同種移植後に起こる合併症でドナー由来のリンパ球が患者さんの正常臓器を異物とみなして攻撃することによって起こります。

敗血症の治療と当初治りやすい型だと診断されたALLの治療が無事終わり、2010年10月に退院。しかしほっとしたのもつかの間、翌年3月（2歳）に再発がわかります。薬のみでの治療は難しく、父誠也さんから骨髄移植を受けました。この際合併症のGVHD（※解説参照）が起こり、晴都君は「目が痛い、痛い」と訴えます。血の涙が出るほどの痛みを味わいました。全力の治療でALLによる危機は脱しましたが角膜の混濁で左目の視力が0.01になりました。

命を覚悟した2度目の再発と右目の光

2012年11月、4歳の時に再再発。この時は医師から「命の危険もある。お子さんとの時間を大切にしたほうがよい」との厳しい話も出ました。炎症で虫垂に穴があき緊急手術が必要となるなどいくつかの危機を乗り越えながら最善治療の検討は続き、翌年3月さい帯血移植が功を奏しました。5歳の誕生月にようやく退院が叶いました。

地域の小学校に入学し、弱視特別支援学級（目の教室）で元気よく学校生活がスタート。しかし保たれていたはずの右目の視力が徐々に低下しほとんど見えなくなりました。晴都君は、小学2年生から埼玉県立特別支援学校で学ぶことにします。囲碁との出合いはそのころです。

第 21 号のコンテンツ

◆囲碁のプロ棋士を目指して 13 歳の挑戦
◆第 1 回 JCCG セミナー
◆日本小児血液・がん学会学術集会
◆投稿コーナー「あるある」
◆国際小児がんデーイベント

囲碁との出合い 「アイゴ」との出合い 仲間との出会い

9路盤からのスタート

晴都君がよく遊びに行っていた祖父母宅の1階部分が「碁会所」に貸し出されることになりました。晴都君は、「囲碁は碁石が白と黒で将棋よりもわかりやすそう」と興味を持ちました。入会すると、初心者用の「9路盤」（線の数は9本×9本、交点の数は81）での練習が始まりました。通常サイズは「19路盤」といい、線の数は19本×19本、交点の数は361。9路盤は通常盤のおよそ1/4のサイズになります。晴都君はここでめきめきと実力を伸ばしていきました。

9路盤でスムーズに打つ晴都君。碁石をすっとすべらせて置く感覚が心地よく、かっこよくも感じるそうだ。碁盤をよく見るために身をかがめる姿勢になる。奥が13路盤。19路盤はさらに大きい。

実力アップと碁盤の壁

大人と同じ19路盤でも打つ力をつけた晴都君でしたが、対局の際に困ることが出てきました。サイズが大きくなると奥の方が見づらくなり、盤を覗き込むように身を乗り出すと、手前の碁石に体が触れて盤面が崩れてしまうのです。19路盤を使用する正式な大会に出場するのは難しいのかもしれないと感じていました。

身近な出会いから開かれた道

晴都君が通っている支援学校には、マッサージやはり、きゅうなどの技能を修得できる専攻科があります。小学3年生のある日、校内で専攻科の弱視の教員が囲碁の視覚障害者大会で部門優勝したことが発表されました。驚いた晴都君は担任教師と専攻科の教員のもとへ。晴都君は「視覚障害者向けの囲碁大会があるなんて！」。囲碁の普及を考えていた教員は「すでに碁を打てる子が学校にいたなんて！」。お互いの驚きのぶつかり合いは、新たな道を生み出します。

2018年4月、晴都君は教員と共に錦糸町囲碁センター（東京都墨田区）に足を運びました。目にハンデを持ちながらしっかりと碁を打てる少年に驚きと注目が集まり、日本福祉囲碁協会、日本視覚障害者囲碁協会といった団体がサポートに動き始めたのです。両協会の担当者から、2018年5月に岩手県大船渡市で盲学校生の囲碁大会が開催されること、「アイゴ」という視覚障害のある方向けに開発された碁盤があり、それを使えばスムーズに碁を打てることを教えてもらいました。

ここで「アイゴ」について説明します。

アイゴ＝「eye＋囲碁」&「eye・Go! どんな目でも前に進め」

交点に打つと碁石がパチンと固定される。

アイゴは、碁盤の線が立体的に浮き上がっていて、裏面に溝のある碁石をはめ込み固定できる碁盤です。黒い碁石の表面には小さな突起があるため指の感覚だけで白黒を区別でき、並んだ碁石を崩さずに盤面を読むことができます。

1980年代に奈良で考案されましたが、金型の腐食で生産がストップ。復活を願う柿島光晴さん（日本視覚障害者囲碁協会代表理事）の思いが新聞報道されたことをきっかけに2013年に再生産されるようになりました。柿島さんによると、アイゴという名前は、目を意味する英語のアイと囲碁の造語であり、「目が見えないなどの状況であっても前に進んでほしい（Go！）」という考案者の前向きなメッセージも込められているそうです。

現在では視覚に障害がある方に愛用されているほか、揺れる電車内で楽しまれたり、高齢で指先が震えて碁が打ちにくくなった方のリハビリなどとしても広く親しまれています。

囲碁大会初出場からの飛躍

晴都君は初参加した盲学校生対象の囲碁大会でアイゴを使って対局し、最年少（小4）で4位に食い込みました。新幹線に乗って大船渡市まで出かけ、碁石海岸で石を触ったことなどの楽しい思い出と、同じ碁盤で真剣勝負ができた喜び、負けた悔しさは囲碁への新たな情熱となります。翌年（小5）にはこの大会で優勝を飾りました。

対戦相手のいる喜び～指扇（さしおうぎ）囲碁サロン～

力をつけた晴都君は実力者の集まる埼玉県内でも有数の指扇囲碁サロンでさらに研鑽を積むことにします。同サロン代表の曽我部敏行さんは、アイゴを大切そうに抱えて晴都君が初めてやってきた日のことを鮮明に覚えているそうです。曽我部さんが気にしたのは「碁を打つ力があるかどうか」の一点でした。晴都君との対局で初めて使ったアイゴには特に違和感もなくすぐなじみ、晴都君の守りの堅さからは「しっかり学んできた子だな。伸びるぞ。」という印象を抱いたといいます。最初のうち晴都君はベテラン相手にハンデをもらっての対戦でしたが、今ではサロンメンバーからアドバイスを求められることも。ここでの実戦が楽しいといい、棋力も躍進しました。彼の持ち味は、集中力、前向きな姿勢、とにかく囲碁が好きなことだそうで、碁を論理的に説明する力はメンバーの折り紙つきです。

曽我部 敏行代表
国際大会での優勝経験もあるアマ強豪。2019年より晴都君を指導。

晴都君のまわりには自然とメンバーが集まる。手談とも言われる囲碁は一手一手がコミュニケーション。

若き挑戦者が起こす新風

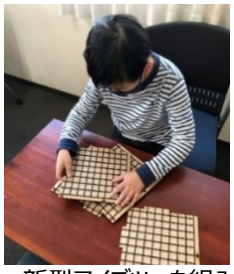
囲碁のコミュニケーション力

日本棋院院生担当者によると、晴都君の院生採用は文句なしだったといいます。礼儀正しい挨拶や集中力、やる気あふれる戦いぶりに、居合わせた担当者らは感動を覚えたほどでした。

中国を発祥に約4000年の歴史があると言われている囲碁は、礼儀が重んじられる一方で、新しいものへの柔軟性も持ち合わせています。背景には「囲碁に真摯に向き合う姿勢と実力があればよい」という気質があり、ゆえに「年齢」も「性差」も「国境」も超えて楽しめる「分け隔てなさ」が魅力のひとつとなっています。晴都君の活躍で「視覚」も超えられることが知られ、囲碁の寛容性がより際立ってきました。視覚に障害がある方と聴覚に障害がある方の対等な対局が可能なのも囲碁ならではだそうで、今後も新たなコミュニケーションが期待されます。

「新型アイゴツー」誕生！

日本視覚障害者囲碁協会代表理事で全盲の柿島さんは、晴都君との交流から「視覚障害は全盲だけでなく弱視の場合もあり、見え方や感じる不便もさまざま。もっと細やかに囲碁愛好者に寄り添えたら」と思うようになりました。昨年、持ち運びしやすいように4分割でき、碁盤の線がくっきり見えるよう黒く塗装された「新型アイゴツー」を開発しました。また、囲碁を教えることもある柿島さんは、囲碁サロンで晴都君の指導力も評判だと知ると「我々は『これ』『あれ』などの指示語を使わずに説明するので自然と論理的になるのかもしませんね」と、見えないことの強みを再認識、今後囲碁の普及活動にもさらに力を入れていくそうです。



新型アイゴツーを組み立てる晴都君。
道具の改良や選択肢の広がりは励みになる。

「対等」に

涼子さんと
晴都君

晴都君の母、涼子さんは、晴都君の自立を第一に考えつつ車での送迎などのサポートは惜しみません。やりたいことを応援したいと強く思うきっかけは最初の退院後の生活にありました。まだ1歳だった晴都君を感染症から守りたい一心で、家の中で大事に大事に過ごしたそうです。しかしその後の再発時に医師から「もしかしたら命にかかわる」と言われ、「なんてことをしてしまったのだろう。もっといろいろなことをさせてあげればよかった」と大きな後悔に襲われました。以来、病気や障害を理由に何かをあきらめたりせずに、できるだけ多くの経験ができるようにと考えています。

そう願っていても、実際には習い事でも幼稚園の行事でも断られてしまうことはありました。ただ、扉をたたき続ければ必ずどこかのドアは開いたそうです。中でも伝統のある囲碁の世界にすんなりと受け入れられたことには本当に感謝しています。「視覚に障害があると、どうしても『健常者と対等に何かをする』のが難しくなります。ハンデを配慮していただき何もかもお膳立てされた『お客様』になるか、最初から『危ない』という理由で断られるか、その二択になりがちです。しかし囲碁ではそのどちらもありません。アイゴを使えば対等に対局ができ、むしろアイゴに興味を持ち、感心してくださることもあります。囲碁のように少しの工夫で対等にできることが増えていけば嬉しいです。」

互いの歩みを思いやる

朝は6時半からインターネットでプロ棋士信田成仁六段の指導を受け、学校が終わると指扇囲碁サロンへ。週末は日本棋院で院生同士切磋琢磨し、「囲碁以外に楽しいことはないです。」と言い切る晴都君。プロへの道をひたすら進み続けています。

晴都君にはプロ棋士になることと同時に、「アイゴをひろめたい」という夢もあります。今囲碁の世界戦では韓国・中国勢がトップ争いをしているため、将来はアイゴを使って世界の棋士とも対等に対局をしてみたいそうです。

通常盤で碁石を打つ魅力もよく知る晴都君は、「本気の本気で戦う実力者たちがアイゴでの対局を受け入れてくれるかな」と相手の気持ちを少し心配しています。その言葉に日本棋院担当者は表情を緩め、こう語りました。「そういった思いやりもプロの資質のひとつではないでしょうか。トップであればあるほどトップにしか知りえない苦労を経験しています。晴都君の場合は視力かもしれません。体のハンディキャップ以外の苦労を重ねてきた棋士もいるでしょう。トップ同士が互いに相手の歩んできた道を尊重し合うことでよりよい対局が生まれると思います。」

プロへの道に立ちはだかる課題はまだすべて見えてはいません。そもそも囲碁はまだ石の置かれていない盤面を頭に思い描き、見えない陣地を想像する競技です。見えていなかったものが行く手に立ち現れた時にどう対応するか、互いに気持ちよく対等に取り組むにはどう工夫すればよいか、晴都君の挑戦はこれからも新たな世界を切り開いてくれそうです。

治療の最前線を学ぶ
グループ内セミナー
初開催！

第１回 JCCG セミナー

テーマ：小児固形がんの分子標的療法

11月6日に小児がん治療の最新情報を共有し、最先端で最良の治療開発を目指す「JCCGセミナー」が初開催されました。医師を中心に看護師、薬剤師、小児がん相談員ら262名がWeb参加し各分野の第一人者の講演に聞き入り、講演後には活発なディスカッションが繰り広げられました。

開会のあいさつ　JCCG 運営委員長・日本大学医学部小児外科　越永 従道医師

JCCG は小児がんの治療開発を目標としているグループ。新たに生まれる未承認薬や治験薬をスムーズに現場に導入するトランスレーショナル研究（橋渡し研究：医薬品を効率よく効果的に実用化するための研究）の体制を構築することが極めて重要です。このセミナーは、JCCG の基盤整備とグループの先生方同士の情報共有を目的に企画されました。

第１部：小児固形がんの新規薬剤開発

1. 骨軟部腫瘍に対する新規薬物療法

大分大学医学部整形外科・人工関節学講座　田仲 和宏医師

骨肉腫、ユーイング肉腫などの治療の現状と問題点を解説。「骨軟部腫瘍の分子標的薬の開発は遅れているが、希少がんであってもターゲットが定まれば薬剤開発はできるため、有用なバイオマーカー（病状の変化や治療の効果の指標となるもの）の開発が重要」だと指摘しました。

2. 小児脳腫瘍に対する分子標的薬の開発

国立成育医療研究センター小児がんセンター脳神経腫瘍科　寺島 慶太医師

小児脳腫瘍の診療はゲノム診療が標準的に。そのがんゲノム検査で検出可能となった、低悪性度・高悪性度・乳児のグリオーマおよび髄芽腫の、それぞれの腫瘍に特徴的な遺伝子変異について解説。複数の標的薬剤が開発中で、一部はすでに承認され臨床使用が可能になっていることも紹介しました。

3. 小児悪性固形腫瘍に対する新規薬剤開発の現状

国立がん研究センター中央病院小児腫瘍科　荒川 歩医師

2013年にスタートした網羅的な遺伝子検査プロジェクト「TOP-GEAR(トップ-ギア)プロジェクト」の内容、小児固形腫瘍の遺伝子パネル検査の結果からどのような薬剤が選択できるかなどを解説。海外と比較し、国内の薬剤開発の課題もまとめました。

第２部：中外製薬株式会社共催セミナー

第1部に続いて中外製薬株式会社との共催セミナー「小児固形がんに対するゲノム検査の将来展開」が実施されました。司会者や講師からは、こうしたセミナーに対する製薬会社の協力への謝辞も述べられました。

第２部講師：東京大学医学部小児科学教室　加藤 元博医師

閉会のあいさつ　JCCG 理事長・京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻　足立 壯一医師

小児固形腫瘍に対する新規薬剤の導入には非常にハードルが高いという現実があります。JCCG だけでは解決が難しい問題もあるため、小児血液・がん学会、製薬会社、患者会の皆様と連携し、海外と同じように新しい薬が開発された時に日本の多くの小児がんの子どもたちが恩恵を受けることのできる医療、多くの子どもたちが笑顔になれる医療を目指したいと思います。

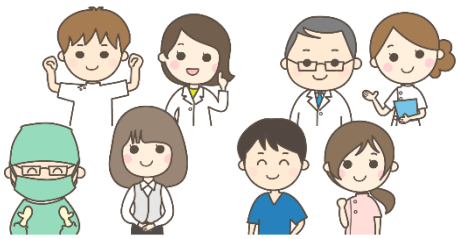
後進の育成も大切で、小児がんの専門医となった若い人たちが「この道を選んでよかった」と思ってくれるよう JCCG として力を尽くしていきたいと思います。

第63回 日本小児血液・がん学会学術集会

学会と臨床研究グループ、車の両輪でよりよい小児がん治療を

11月25～27日、「Science and Narrative」をテーマに日本小児血液・がん学会学術集会がWeb開催されました。小児がんやAYA世代がん医療における研究の成果を互いに発表、議論し、小児がん医療の進歩やトータルケアを推進する重要な場で、日本小児がん看護学会の学術集会、公益財団法人がんの子どもを守る会との合同公開シンポジウムも同時開催されています。同学会でJCCGが臨床研究グループとして発表した演題を紹介します。

◆演題、 筆頭演者名、（所属）の順で記載



～JCCG疾患委員会～

神経芽腫委員会

◆JCCG-JNBSG高リスク神経芽腫臨床試験例のゲノムマーカー解析
大平 美紀（埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所）

◆神経芽腫群腫瘍のtelomere maintenanceメカニズム異常の解析
菅原 大樹（埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所）

肝腫瘍委員会

◆臨床応用を目指したDNAメチル化解析に基づく肝芽腫予後層別化の検討
本多 昌平（北海道大学大学院医学研究院消化器外科学教室Ⅰ）

◆小児肝がん臨床試験（JPLT 3）における外科レビューの評価
佐伯 勇（広島大学病院小児外科）

ALL委員会

◆KMT2A陽性乳児急性リンパ性白血病におけるフローサイトメトリーでの微小残存病変の検討、JPLSG MLL-10試験より
荒川 ゆうき （埼玉県立小児医療センター血液・腫瘍科）

◆日本における乳児急性リンパ性白血病の晩期合併症 （長期フォローアップ委員会と合同）
野上 由貴 （国立がん研究センター中央病院）

◆日本における乳児急性リンパ性白血病の治療戦略の進歩
宮村 能子 （大阪大学小児科）

AML委員会

◆t(1;22)(p13;q13)染色体異常を有する小児急性巨核芽球性白血病の臨床的特徴と予後
濱 麻人（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院小児医療センター血液・腫瘍科）

CML委員会

◆小児慢性期慢性骨髄性白血病（CML）に対する多施設共同観察研究CML-08（最終解析）
嶋田 博之 （慶應義塾大学医学部小児科）

◆多施設共同観察研究 CML-08でのボスチニブ使用症例の解析
慶野 大 （神奈川県立こども医療センター血液・腫瘍科）

◆小児慢性骨髄性白血病に対する多施設共同観察研究CML-08: 同種造血幹細胞移植の解析
遠野 千佳子 （岩手県立中部病院小児科）

HLH/LCH委員会

◆JPLSG HLH-2004臨床試験における脱落例の後方視的調査
小野 林太郎 （聖路加国際病院小児科）

TAM委員会

◆一過性骨髄異常増殖症患者151例におけるサイトカイン解析: JCCG JPLSG TAM-10 study
大和玄季（群馬県立小児医療センター血液腫瘍科）

～JCCG専門委員会～

長期フォローアップ委員会

◆がんの子どもの復学とその後のために～本人・家族・教育・医療の協働を支えるツールの開発～
早川 晶 （淀川キリスト教病院緩和医療内科）

◆日本における乳児急性リンパ性白血病の晩期合併症（ALL委員会と合同）
野上 由貴 （国立がん研究センター中央病院）

読者投稿コーナー

あるある！

みんなの歩いてきた道 歩く道

第２回

愛犬の「シン」君

～ご投稿者～

ペンネーム「あゆゆ」（小学４年）

～投稿エピソード～

愛犬の「シン」君、オスの「柴犬」です。いつも病院から外泊の時や一時退院の時は、家に帰って会うのをとても楽しみにしていました。病院から帰るとシン君も、伏せの姿…前足をクロスさせる「お決まりのポーズ」で待っていて、それからシッポをふって大はしゃぎ。シン君はビーフジャーキーが大好きで、耳が「ふさふさ」しているのがチャームポイントです。おじいちゃんも一緒に、よく公園へお散歩に行っています。

あゆゆさん、
素敵な投稿を
ありがとうございました ♪

「 読者投稿コーナー
あるある！
みんなの歩いてきた道 歩く道 」
…では、随時投稿を
募集しています。

募集中のテーマ…「元気をくれる曲」

ちょっと調子が出ないとき、正直弱音を吐きたくなるような時、支えてくれたり、元気をくれたりする曲はありますか？
とっておきの1曲を、エピソードとともにぜひご紹介ください♪

自由テーマ＆ジャンルを問わない作品も
随時募集しています！

治療中の方も、
経験者の方も、
ご家族も、
奮って投稿をお寄せください♪♪

投稿が採用された方には、JCCGオリジナルピンバッジをプレゼントいたします♪

応募フォームQRコード

応募フォームURL
https://docs.google.com/forms/d/1_e-eK30semoFY2yBM28fH3a9MQOGPQML5lBieJhBEJA/edit

国際小児がんデー関連イベント

バレンタインデーの翌日、2月15日は「国際小児がんデー」です。

この日を中心に、世界各地で小児がんの子どもの支援を呼びかけるイベントが開催されます。日本でも国際小児がんデーのある2月にはさまざまな啓発イベントが予定されています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、例年通りの開催が難しい中、各地で工夫をこらしたイベント、恒例となっているイベントが企画されています。

ここでは取り組みの一部をご紹介します。各病院での取り組みもあるため、ぜひご参加ください。

♪豪華アーティストによるオンラインライブ　全国に届け 2/15 17:00～ エンターテイメントで子どもたちに元気を♪

2月15日に小児がん治療支援チャリティーライヴ『LIVE EMPOWER CHILDREN 2022 supported by 第一生命保険』が無料生配信で開催されます。子どもたちを音楽で元気づけようと、ピコ太郎、Da-iCE、TRF、倖田來未、東京スカパラダイスオーケストラ、ハラミちゃん、moumoonら、人気アーティスト12組が集結、このライブのテーマソング「My Hero～奇跡の唄～」を作詞したつんく♂の特別出演も決定しました。（作曲は坂本龍一）

視聴は無料で、小児がんの子どもたちを支援できるさまざまな寄付体制が構築されています。

主催：一般社団法人「Empower Children」、株式会社朝日新聞社。主催者は、「病室で闘病生活を送っている子どもたちにも楽しんでほしい」と話しています。

【開催概要】

日時：2022年2月15日（火）開場16:00～ 開演17:00～

料金：無料（生配信）

配信プラットフォーム：ABEMA、dTV®、LINE LIVE、YouTube、Z-aN ※「dTV」は株式会社NTTドコモの登録商標です

♪視聴方法の詳細・小児がんの子どもたち支援方法など詳細は公式サイトへ https://empower-children.jp/lec/

♥チョコレートなどで啓発　子どもたちの絵画展も♥

バレンタインの贈り物に、ゴールドリボンチョコレートはいかがでしょうか。500円以上の募金をしてくださった方に、オリジナルチョコレート（1箱6枚入り）を差し上げます。限定5000個。

支援につながるチャリティーグッズとして、ゴールドリボンがデザインされたバッジやネックレス、バッグも用意されています。

オンラインで子どもたちの絵画展も特別開催されます。3月31日まで。

♥絵画展入り口
https://ccaj絵画展2021.jp/

♥お問い合わせ「がんの子どもを守る会」 https://www.ccaj-found.or.jp/iccd/

自分の体と向き合う道しるべに

小児・AYA 世代がん経験者 みんなの健康管理サイト

公益財団法人　がんの子どもを守る会

オープン！ Open!

「疲れやすい」「耳鳴りがする」…もしかしたら治療の影響かもしれません。もとの病気との関連がわかる情報が集まっています。

まずはこちら！

Health check!

あなたの健康管理法を確認！

Check する！

「YES」「NO」形式のシンプルな質問に答えて自身の健康管理法を確認できます。

誰でも自分で自身の健康管理を ・ 誰も治療後迷子にならぬよう

がんの子どもを守る会は、このほど小児・AYA世代がん経験者の健康管理についての情報提供サイトを開設しました。同会のソーシャルワーカーらが20～30代の小児・AYA世代がん経験者約30名と内容や使いやすさを検討し、必要な情報にアプローチしやすいサイトになりました。

なんとなく体調に不安を抱えている方、治療当時の「治療サマリー」がなく頼るべき医療施設がわからない方もぜひサイトにアクセスしてみてください。

※「小児・AYA世代がん経験者」は、主に18歳未満でがんを発症した方を想定しています。

サイトはこちらからご覧いただけます。

小児・AYA 世代がん経験者みんなの健康管理サイト　検索

http://kenkokanri.ccaj-found.or.jp

サイト担当者より一言

健康管理／長期フォローアップの流れに乗っていない経験者にアクセスして欲しいサイトですので、広く医療者の皆様を通じた広報に期待しています。

ご寄付のお願い

小児がんの子どもたちのサポートにご協力ください

1 カ月あたり 1000 円、年間 12000 円のご寄付で、がんの子ども 1 人の治療支援が可能になります。

「未来の新治療開発」（バイオバンクへの細胞保存）、**「正確な診断」**（中央診断システムの維持）、**「大人になるまで見届ける」**（長期フォローアップ手帳の確実な配布と運用）。そのために、小児がんの患者さん 1 人に年間約 12000 円が必要です。

JCCG は、毎年新たに発症する 2500 人の子どもの命を守ろうと努力しています。

一人でも多くの子どもたちに、「治った！」という明るい未来をプレゼントするために、どうかご協力をお願い申し上げます。

ご寄付はこちらへお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行　郵便振り込み
口座記号　00850-5　口座番号 153506
加入者名　NPO　JCCG

JCCG HP より、クレジットカード寄付も可能です

JCCG ホームページ

インターネットでのご寄付

クレジットカードで寄付

JCCG 事務局

〒460-0003 名古屋市中区錦 3 丁目 6 番 35 号 WAKITA ビル 8 階
TEL：052-734-2182　FAX：052-734-2183　E-mail：friend@jccg.jp

Special Thanks!　イラスト：かとーゆーこ（http://katoyuko.sakura.ne.jp/）　コピーライティング：石黒 佐和子
JCCG 自動販売機デザイン：有限会社 Sadatomo Kawamura Design

JCCG ニュースレターは、ご寄付をいただいた皆様や以下の支援団体様のご協力のおかげで発行されております

CCAJ 公益財団法人 がんの子どもを守る会 Children's Cancer Association of Japan
FLRF 特定非営利活動法人 白血病研究基金を育てる会 Friends of Leukemia Research Fund
認定NPO法人 ゴールドリボン・ネットワーク
レモネードスタンド普及協会
Aflac 「生きる」を創る。
伊藤園
CancerNet Japan